ランチョンセミナー 4

第23回日本検査血液学会学術集会

東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）

The Japanese Society for Laboratory Hematology
日本検査血液学会

日時・会場

7.30 2022 SAT
12:10-13:00

現地講演会場
第8会場
医学部1号館 3F「NC309」

現地中継会場
中継会場2
医学部3号館 1F「S102」

多発性骨髄腫のフローサイトメトリー解析
Up to Date ～診断からMRD解析まで～

座長 正本 庸介 先生
東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科

演者 西川 真子 先生
東京大学医学部附属病院 検査部

本学術集会は **現地＋WEB配信でのハイブリッド開催** となっております。
現地参加の方はランチョンセミナーの事前予約が可能です。
詳細は学術集会ホームページをご確認ください。

第23回日本検査血液学会学術集会 検索

共催：第23回日本検査血液学会学術集会／ヤマサ醤油株式会社

多発性骨髄腫のフローサイトメトリー解析 Up to Date ～診断からMRD解析まで～

西川 真子 東京大学医学部附属病院　検査部

多発性骨髄腫は，形質細胞が単クローン性に増殖し，様々な病態や症状を引き起こす難治性造血器腫瘍である．全造血器腫瘍の約10%を占め，わが国では高齢化とともに年々増加傾向にある．骨髄中に増加する骨髄腫細胞を評価するために，形態検査，免疫組織化学染色，遺伝子・染色体検査とあわせてフローサイトメトリー（FCM）は必須の検査である．多発性骨髄腫のFCMにはCD38ゲーティングを用いる必要があるため，FCM解析を行う前に他の臨床検査所見や腫瘍細胞の形態学的特徴，細胞比率を把握し，適したゲーティング法を選択する必要がある．

多発性骨髄腫の新規治療薬として，骨髄腫細胞に高発現するCD38に対する抗体医薬が広く臨床応用されている．抗CD38抗体医薬投与後はFCMでのCD38検出が阻害される可能性がある．この対処法として，異なるエピトープを認識する抗CD38抗体や，CD38以外の骨髄腫細胞に特異的な抗原を認識する抗体が使用される．

また近年，多くの新規治療薬の登場により，多発性骨髄腫の治療成績は著しく向上している．微小残存病変（MRD）の判定基準であるFlow MRD-negativeは，1×10^{-5}以上の検出感度を有するEuroFlow法あるいは検証されたこれに準ずる方法を用いたマルチカラー FCMにより，骨髄中に異常な表現型を示すモノクローナルな形質細胞が検出されないと定義されている．Flow MRD-negativeと予後との関連についての報告は多く，今後ますますマルチカラー FCMを用いたMRD評価に基づく治療戦略が普及していくことが予想される．本セミナーでは，当院の症例を紹介しながら，多発性骨髄腫の診断からMRD解析まで，フローサイトメトリー解析のポイントを解説する．